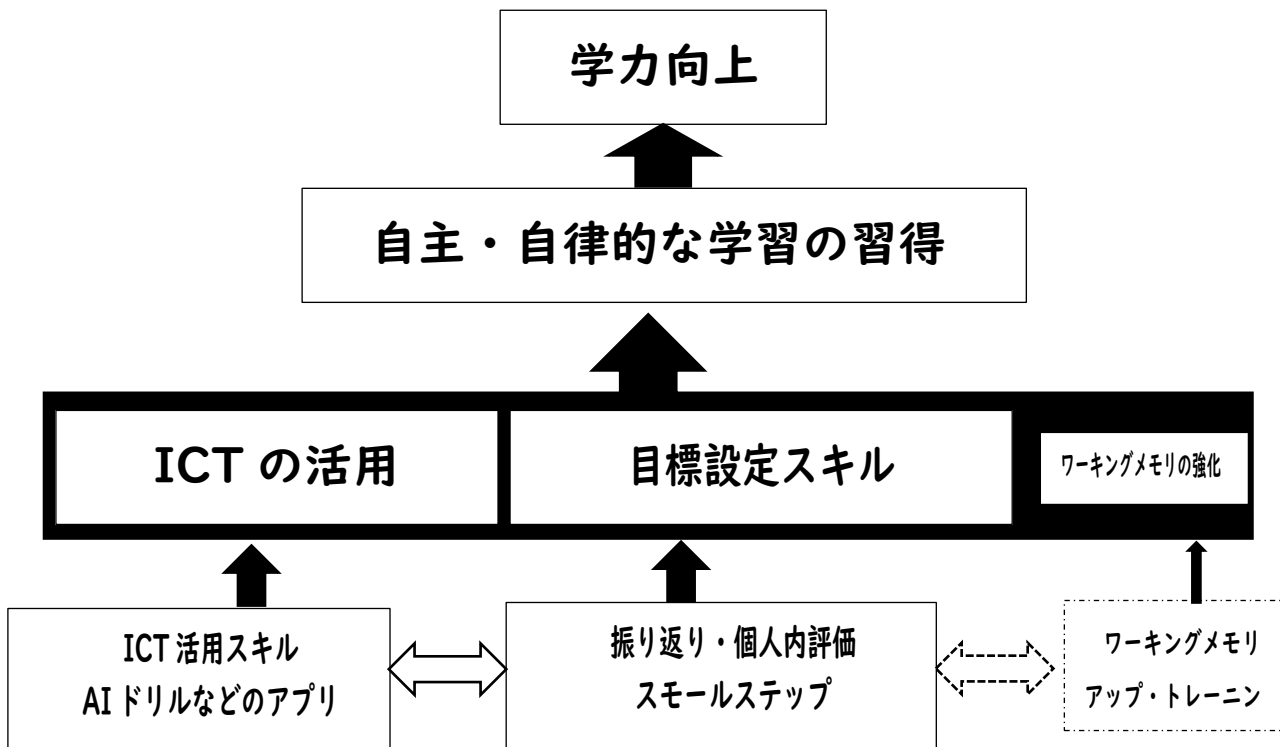


1. 研究主題

主体的・対話的で深い学び推進のための ICT 機器の活用
自ら課題を設定し、交流し合う学習サイクルの確立
～「振り返り」活動に着目して～（二年次）

2. 構想図チャート・年次計画



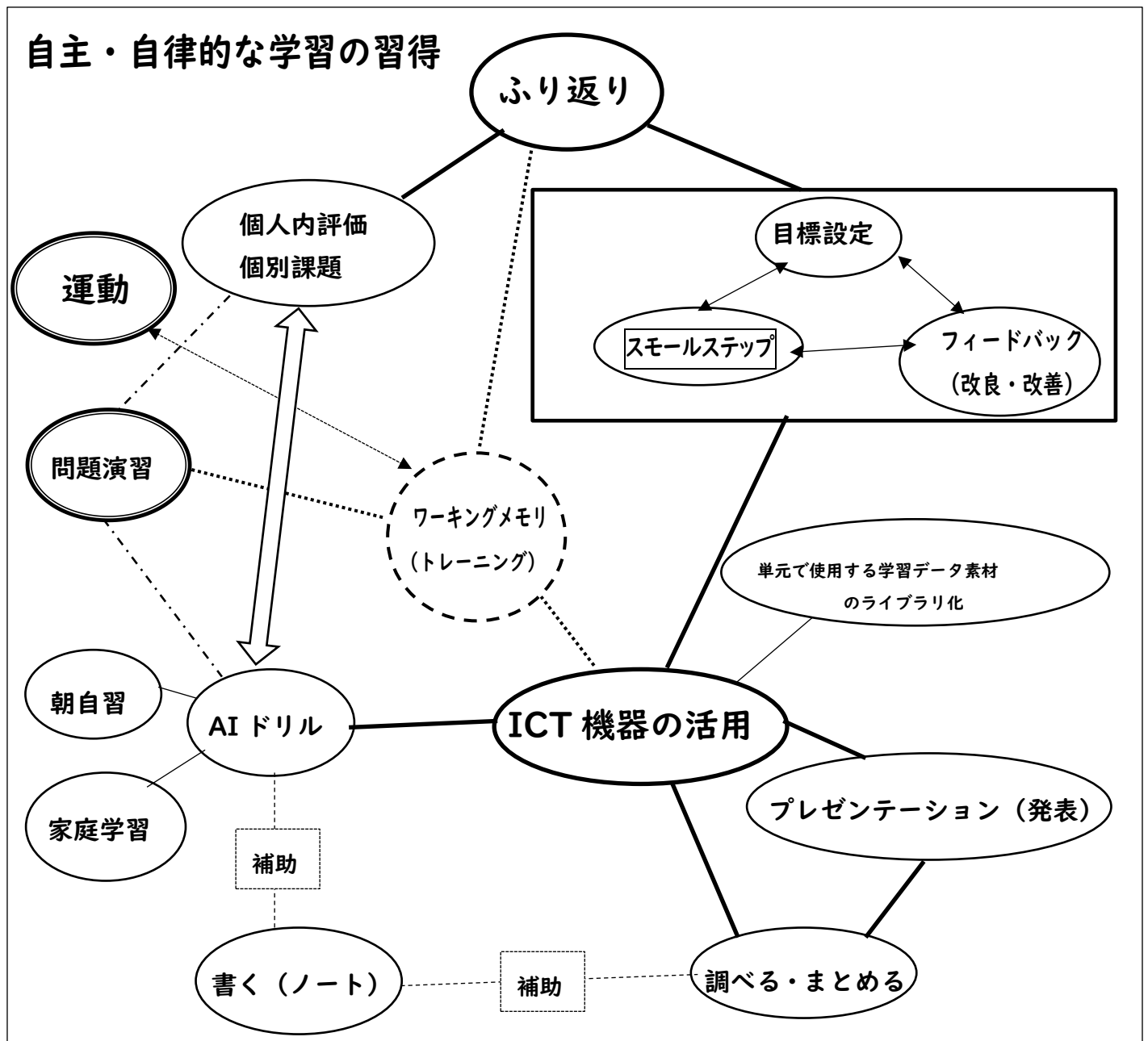
3年間プラン改定版

1年次 ふり返りによる目標設定と、AIドリル等のICT機器の活用を合わせた取り組みを行い、自主的・自律的な学習態度を身に付けさせる基礎を培う。

2年次 算数科を研究教科に設定し、ふり返りによる目標設定と、ICT機器の活用を合わせた取り組みを行い、自主的・自律的な学習態度をさらに向上させる。

3年次 ふり返りによる目標設定と、ICT機器の活用を合わせた授業づくりを学習活動全体に広げ、自主的・自律的な学習態度を身に付けさせ、【ICT活用、振り返り】の沼小スタンダードを作り上げる。

《詳細関連図》



「わかる授業」づくり **5** つのポイント

- 1 学びの基盤を支える「学習規律」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ(振り返り)」終わりの5分の確保

3. 主題設定の理由

《課題》

- 沼小の児童の学力が伸び悩んでいる。(特に算数科)
- ICT 機器の普及・発展への対応
- 学級にさまざまな習熟度の児童が存在する。
- タブレット等、ICT 機器の積極的活用により、「書く活動」の比重の相対的な低下

《対策》

- 児童が自主的・自律的な学習スキルを身に付ける。
- 「振り返り活動」を重点項目とする。
 - ・目標をもって学習に取り組む。
 - ・個人内評価を基準
 - ・スモールステップで進めていく。
- OAI ドリルを活用し、児童の習熟度と課題に合わせた学習を行う。
 - 朝自習や家庭学習(宿題)、その他、補充学習でも活用
- ICT 機器を活用しての発表(プレゼンテーション)
- 単元で使用する学習素材を蓄積・ライブラリ化
- 問題演習の時間を確保する。
- 沼小スタンダード(既存)を活用する。
- 補足：○ワーキングメモリを強化する。
 - ・ワーキングメモリアップ・トレーニングを試行的に行っていく。

☆振り返りの自己目標設定サイクル (individual goals set and feedback cycle)

自らの学力に合う目標を設定し、毎時間の振り返りにおいて、到達度を確認する。そしてそれをフィードバック(改良・改善)させた自己目標を新たに設定し、次の授業に臨む。次の授業後の振り返りにおいて、また到達度を確認、次なる自己目標を設定する、ということを繰り返していく。スモールステップで、少しずつ進んでいくようにして、最終的に大きな目標を達成する。

☆ワーキングメモリとは

作業記憶を訳される。情報を意識して処理する際に使用する記憶である。生活のあらゆる場面で使用され、時に頭のよしあしを決める要素となる。短期記憶とは違う。ワーキングメモリは、その情報を短期間覚えているだけでなく、その情報で何らかの作業ができるようにする能力である。大人は一時に5～6この情報を記憶できるとされる。小学生は2～4こである。

4. 授業の具体的な例

・授業内容については、「ICT活用実践事例集」を参考にできる。


【校支援→ GIGA サポート北九州（右側にあります）→ 資料集に掲載されています】

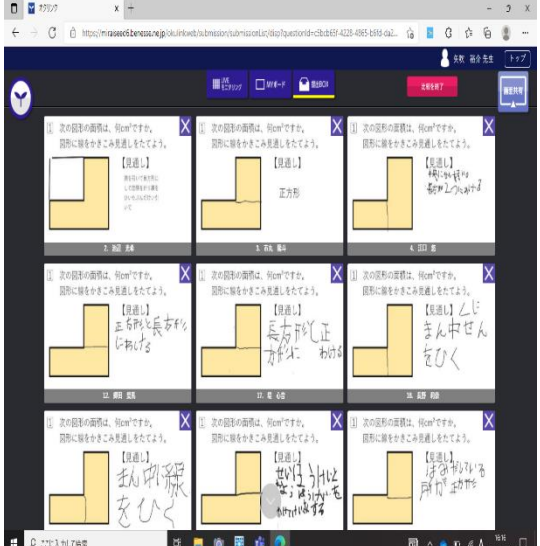
《今回の主題に沿った授業の例》

○使用アプリ「ミライシード：オクリンク」

○使用場面 個人思考・考えの発表・考えの共有

令和3年度「GIGAスマートスクールICT活用授業実践研究」（新様式） 授業実践事例

(1)校種・学年・教科等・単元名	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	学年	教科等	単元名
		4年	算数科	「面積」
(2) 本時の時間・本時のねらい	本時 4 時間目 / 総時数 10 時間	L字型などの複合図形をオクリンクの発表カードを活用して分割したり、補充したりして、その面積を長方形や正方形の面積の公式を使って求め、説明することができるようにする。		
(3) 主な ICT 活用場面と学習形態・スタイル及び手順とポイント・画像	場面	学習形態	スタイル	
	<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ	<input type="checkbox"/> A一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> B個別学習 <input type="checkbox"/> C協働学習	B2 児童一人一人がタブレットを活用し、複合図形の求め方を考える。	
	手順	ポイント	画像	
① 児童一人一人が複合図形の面積の求め方を考え、どのように考えたら式に表すことができるのか、ということミライシード上オクリンクの発表カードに記入させる。	机間指導をしながらなかなか考えをもてない児童に対して、助言を行う。また、場合によっては補助線を引き、一人一つは求積方法の見通しを立てられるようにする。			

	<p>② ミライシード上オクリンクの発表カードに記入されたものをテレビ画面に映し出す。そして、児童それぞれの考えを共有し、問題解決の見通しを持たせる。</p>	<p>求積方法が一つではないことを実感させ、同じ画面で複数の考えを比較させながら、児童の考えを共有するようにする。</p>	
--	---	---	--

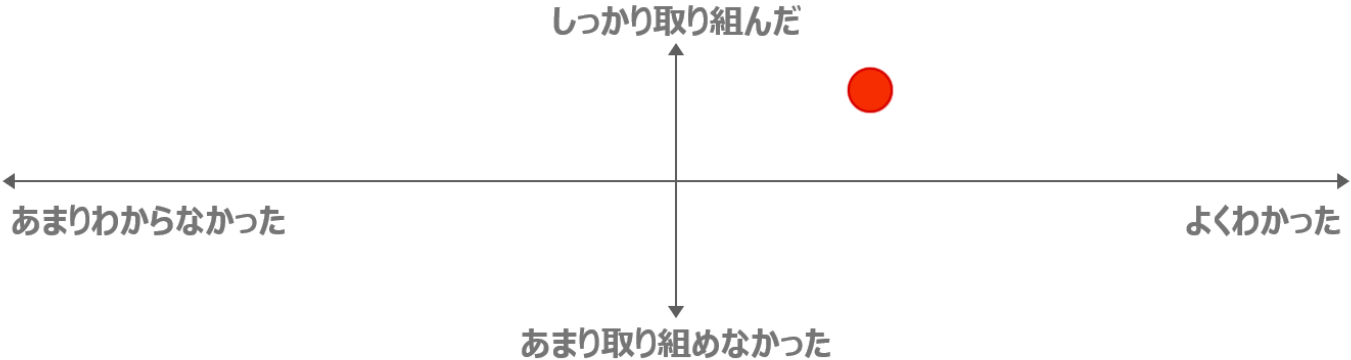
《振り返りの例》

- できるかぎり数値化、視覚化できるようにする。
- 上記の授業に「個人内目標設定による振り返り」を加える。
- SKYMENU の ポジショニング を使用し、達成度を記入する。

このページを見る
プレビュー 終了
先生1

授業の振り返りをしよう（算数 面積 4 時限目）

しっかり取り組んだ



あまりわからなかった

よくわかった

あまり取り組みなかった

面積の求め方を、しっかり考えて友達に説明することができた。今度は、もっとわかりやすく説明するために、順番を考えて説明したい。
🕒 ↕

「ポジショニング図」と「振り返りの文章」を記入させる。これにより、自分の現在の位置（達成度・成長）を視覚的に感得させるとともに、文章で目標を設定させる。これを、自分の「算数振り返りフォルダ（仮名）」に収納していく。それにより、自己内評価を行い、次時への自己内目標につなげていく。

例に挙げているものは、縦軸と横軸に構成されているが、児童の発達段階に応じて、縦軸のみ、横軸のみのものなど、簡素化してもよい。

タイピングの練習を行う。Teams→それぞれの学年全体→プレイグラムタイピングのアプリを活用する。

「振り返り」の基準を明確にすると書きやすい。

《基準の例》

○「わかった」の基準の例

- ・めあてが達成できた。
- ・全員の前で解き方を説明できた。
- ・解き方がわかった。
- ・練習問題が十分に解けた。
- ・友達に解き方を説明できた。
- ・まとめを考えることができた。

○「取り組んだ」の基準の例

- ・めあて、まとめ、振り返りを書いた。
- ・進んで手を挙げた。
- ・ノートを丁寧に書いた。(定規を使う・赤鉛筆を使う)
- ・友達に解き方を説明した。
- ・ノート(タブレットノート)に説明を記入した。
- ・全員の前で解き方を説明した。
- ・難しくても、あきらめずに取り組んだ。
- ・まとめを自分で考えた。

◎各教科ごとの振り返りの仕方を工夫する。(国語科、芸術教科、体育科など)

例えば、国語科は毎時間に小さな振り返りを行い、単元の終わりに大きな振り返りを行う、など

5. 組織構想 (OJT を活用)

◎同学年を単位とするグループで行う。

○算数科による主題研究授業

- ・2学期までにすべての主題研授業を終了する。
- ・事前に指導案検討会、事後に協議会を行う。
- ・担任がない専科の教師は、いずれかの学年に入る。

○主題研究のまとめ・振り返りを、同学年で行い、レポートを提出する。

(2学期後半～3学期)

○学テ、CDTの分析

◎6月に提案授業を実施予定

※PART2 (主題研究の詳細) に続く!